

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0373000660		
法人名	医療法人 孝仁会		
事業所名	グループホーム いわいずみ		
所在地	〒027-0508 岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2(の一部) (電話)0194-31-1166		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	10月26日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 6.5	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費(月額)	無	その他実費	円
敷金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり	1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		5 名	
要介護3		要介護4		2 名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.5 歳	最低	79 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会岩泉病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、医療法人孝仁会の運営する事業所の一つで、JR岩泉駅から車で5分程度、国道455号線、下坪バス停から200mのところであり、近接して住宅(集落)がある。山や川など自然に囲まれた、静かな環境にあり、利用者は、ゆったりとした居住空間の中、地域住民や職員の暖かい見守りを得て、四季の移り変わりを実感しながら、それぞれのペースで、生活をしている。特に、利用者は、明るく楽しそうに日々を過ごしており、またホーム行事や日常生活の状況を撮影したビデオを皆でニコニコしながら観賞している姿は印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では特段改善を要する課題はなく、常日頃から真剣かつ細やかな取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はじめ全職員で自己評価に取り組み、評価の意義や目的を理解、個々の振り返りや見直しに活かしている。評価項目・内容についての話し合いを通して、職員間の認識の共有につながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年に6回開催されているが、速くの家族の参加をお願いするため利用者の誕生日にあわせ開催するなど工夫をしている。その主な内容は、入居状況や活動状況の報告、意見交換等となっている。委員の積極的な協力のもと、散歩コース内の危険箇所が整備されたほか、近隣の住民の災害時の避難誘導への協力体制がつけられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は設けられていないが、年1回の家族アンケートを実施するなどして、家族からの意見等をいただく機会をつくらせている。特に当該ホームでは利用者のケーキづくりやお寿司づくり、団子づくり、干し柿づくりなど、利用者の日常の様々の活動の写真を一杯撮り、いわゆる「写真による日常のケース記録」をつくり、家族に配布し、ホーム内で見られるよう工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入し、回覧板の回付、ホームの広報紙の配布のほか、ホームで開催する「花火大会」に参加していただくなど、地域との交流に積極的に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着・共生を意識して、「地域住民と共生しながら、個々のペースにあった、役割、生活、ゆとりを持ち、喜びや悲しみを職員と共に共感し、日常生活を送ることが出来るように支援します。」を、全職員で話し合い理念として定めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「主役は入居者」「五感を刺激」「会話をする」「生活をするのがリハビリ」「自分の家族を入居させたいと思うグループホーム」といったホームの基本姿勢」を定めその具体に取り組んでいるほか、職員会議などで理念を確認し合い、理念の実現に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入している。日常的な回覧板の回付、ホームの広報紙の配布のほか、ホームで開催する「花火大会」に参加していただき、利用者は地域の方々と一緒に太鼓たたきに挑戦するなど、地域との交流を積極的に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で、自己評価の全項目について検討し、評価の意義や目的を理解し、個々の振り返りや見直しに活かしている。自己評価のプロセス、話し合いを通して、意識と情報の共有が図られている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	遠くの家族の参加をいたたくため運営推進会議は年に6回(概ね2ヶ月毎)とし利用者の誕生会に合わせ開催している。主な内容は、入居者状況や活動状況の報告、意見交換等である。委員の積極的な協力の下、散歩コース内の危険箇所が整備されたほか、近隣住民の災害等緊急時の避難誘導への協力体制がつけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議への参加や広報紙を配布する機会を通じて、情報収集・提供や意見交換を行うなど、常に、連絡や相談ができる関係づくりに努めている。ケース検討のため役場職員がホームへ来訪されその際様々話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定例的には、隔月に発行する広報紙「グループホームいわずみ」の「通信欄」に記載するほか、健康・生活、暮らしぶりなどを、送付文書添えて手紙でお知らせしている。通院など健康状態に変化があるときは、その都度、連絡を取り合っている。預かり金については、面会時に説明し、家族の確認をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は町内に住所を有しているが、家族は遠距離に在住のため1人暮らしの方が多い。また、家族会が未設置であることから家族の意向等を把握するため年1回の家族アンケートを実施するなどして、家族からの要望、意見等を聞く機会をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで他地域出身の職員が多く、また異動・退職も多かったが、現在は、町内在住の職員による配置を行い、職員との馴染みの関係をより一層深めている、なお、異動は必要最小限に止めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については法人内外を問わず、積極的に受講させるように配慮している。研修結果は、カンファレンス等で伝達し共有するほか、先輩職員が後輩職員を育成するトレーナー制度を活用して、中堅職員の資質向上にも取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県やブロックのグループホーム協会の定例会に参加して意見交換、情報交換するほか、他のグループホームとの交換研修へも積極的に参加して、交流を深めるとともに、ケアのレベルアップにも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近新規の利用者は無いが、一人暮らしや家族の都合での緊急利用となったケースが多かったが、可能な限り基本である訪問での馴染みづくりや体験・納得しての利用に努めているとしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当地域は自然豊かであることから梅干づくりなど四季折々の活動のほか、利用者の出来ること、したいことを通して、職員利用者が、互いに教えあい、感謝しあい、励ましあい、共に支えあいながら生活をしている。なお、今後の楽しみなどを考え、ホーム周辺に梅や桜、柿などの木を植えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の利用者の会話、行動、表情、家族からの情報等を基に、思いや意向を把握するほか、センター方式を導入し、これら日常情報を大切にしていより利用者本位のケアが出来るように努めている。	○	センター方式のアセスメントの積極的な活用により、利用者本位をさらに追及してゆくことを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、基本的に職員全員で検討し作成している。作成にあたっては、ケアプラン導入シートや事前評価(アセスメント)シート、職員会議(スタッフカンファレンス)等を踏まえ、また本人・家族の意見・意向を反映して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに評価及び介護計画の見直しを行い、利用者の状態や観察結果(モニタリング)、本人・家族からの意見等をもとに、職員がアイデアを出し合い必要な計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受療のための通院や必要な買い物、外出など、利用者一人ひとりの思いや希望に応じて柔軟かつ臨機に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は全て地元の病院で、本人・家族の希望する受診となっている。受療通院は、家族同行を基本としながらも、職員が付き添って通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の利用者への対応については、利用者の状態変化、レベルダウンの際に、病院及び家族と相談し個々に検討している。特に、終末期の対応方針については、病院の指示を仰ぎながら、家族との話し合い、スタッフの意識づけを行っている。	○	終末期等への対応について、職員間で研修や意見交換を重ね、情報を共有して、利用者、家族の思いを大切にしたい終末期等の対応を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年に2回、「言葉づかいチェックリスト」により、言葉がけの見直しを行っている。個人情報の取り扱いについては、新任職員研修等、年1回勉強会を行ってプライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の過ごし方を一応もっているが、実際は利用者の思い、意向を大切にしながらそれに沿うよう努力している。例えば、買い物や食事の時間など、利用者一人ひとりの希望やペースに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から、利用者の好みや食べたいものを聞きとり、献立に取り入れている。また買い物や調理、盛付け、配膳、食事、片付けは、ほとんど職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴出来るようにしている。風呂嫌いの利用者などについては、言葉がけや立ったタイミングを利用するなど工夫をして誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の準備・片付け、テーブル拭き、洗濯物をたたむなど利用者の活躍できる場面づくり、また楽しみや気晴らしのため買い物、ドライブ、つつじやアジサイなどの花の見学、歌などを設定し支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日ホームの中だけで過ごさないようにするため、周辺の散歩や身の回り品の買い物、ドライブなど、利用者の希望に沿って外に出るよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去に1人で外出してしまった事例があったが、ホームとしては基本的に鍵はかけていない。なお、近隣の方々もホームの状況を理解しており、種々側面から支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施するほか、毎月、職員の通報訓練と避難訓練シュミレーションを行っている。地域住民には、災害等緊急時には避難誘導への協力の了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量について利用者ごとに、記録をしている。栄養バランス等献立について毎月同法人内の栄養士の指導を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や水分の摂取量について利用者ごとに、記録をしている。栄養バランス等献立について毎月同法人内の栄養士の指導を得ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの箆笥や、写真、位牌、ぬいぐるみ、植栽、生け花等をそれぞれ工夫して配置し、住まいしている。		